様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	白石町立有明東小学校
1　前年度 評価結果の概要	**・学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となって、県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討等、全職員で分担をして研修を行った。** **教職員アンケートの項目『児童に「読む力」「書く力「考える力」をつけるために工夫して授業を行う』では、昨年度届かなかった目標値を超えた。日々の指導により、学習状況調査の結果も良好であった。** **・挨拶の奨励について、挨拶運動を計画し、実施すると互いに挨拶を交すことができているが、普段はなかなか挨拶はできていない状況にある。挨拶をすることのよさ、すばらしさを授業や各活動において価値付けをしていかなければならない。家庭での挨拶も十分にできている状況ではないので、保護者への働きかけも積極的に行っていきたい。**
2　学校教育目標	**進んで学びさわやかにたくましく生きる子どもの育成**
3　本年度の重点目標	**①　全ての子どもが「学ぶ喜び」「分かる・できる喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。** **②　全ての子どもに「自分や友だちのよさを認め、仲よく活動する」機会を作り、「学校に来てよかった」と思える成就感の向上を図る。**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・校内研修を行い，全職員で継続的に徹底して指導を行う。	A	・すべての職員はマイプランを実践している。 ・「だいたいしている」が79%であり、今後はすべての教科・すべての時間において実践できるよう教材研究を進めていく。	A	・すべての職員はマイプランを実践している。 ・目標に沿って実践することができた。 ・来年度は、よりよい実践へと質の向上を目指したい。	A	・マイプランにそっての実践していくのはとても大変なことだが、よくやっている。 ・マイプランの実践により子どもたちの学力向上など実践結果につながっていることがあってよい。	学力向上コーディネーター
	◎主体的・対話的な学びの充実	○「学習のめあてをもち，学習に取り組んでいる。」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上	・めあてを子ども目線で立てることができるような授業実践を行うために，教材研究・児童理解を深める。	A	・96%の児童がめあてを持ち学習に取り組んでいる。 ・自己評価、自己調整につながる個人のめあてとなるように、教材研究・児童理解を深める。	A	・98.3%の児童がめあてを持ち学習に取り組むことができた。 ・主体的・対話的な学びとなるために、児童一人一人が学習のめあてを明確に持って学習に取り組んだといえる。	A	・・ほとんどの児童がめあてを持ち学習に取り組むことができているので問題がない。 ・コロナ禍の中良く頑張ってくれました。先生方の苦労が伝わったのでは、	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友だちのよさが分かる」という児童を85%にする。	・他者への思いやりの心を育てるための取組や指導を工夫する。	A	・89%の児童がほぼ自分や友だちのよさを知っている。 ・代表委員会でふわふわ言葉が飛び交う学校にするための取組みを話し合った。2学期から取組みを始め、さらに思いやりの心を育てる。	A	・94%の児童が自分や友だちのよさを知ることができた。 ・道徳の学習や人権集会、ふわふわ言葉の取り組みにより、自他のよさを知り、思いやりの心が育ってきたと考える。	A	・当初の目標に比べ、自分や友だちのよさを知ることができているので今後も続けてほしい。 ・学校全体での取り組みがうかがえる。一人でも落ち込む子供がないように願う。 ・不登校児の児童がいないか、心配である。	特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○小さないじめ事案を見逃さないように、報告・連絡・相談をしようと務めた職員の割合を100%にする。 ○「友だちの事を思いやり、学校で楽しく過ごすことができている」という児童を90%にする。	・子どもの観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。 ・小さな事案でも関係者での話し合いやケース会議を行う。 ・児童理解連絡会を定期的に設ける。 ・SCとの連携を図る。	A	・いじめの研修を受け、小さないじめ事案を見逃さないよう職員が意識を高めることができた。 ・98%の児童がほぼ友だちのことを思いやり、学校で楽しく過ごせている。 ・アンケートでの実態把握・ケース会議・児童連絡会・SCとの連携を定期的に行った。これらを継続し、「学校に来てよかった」と思える成就感の向上を図る。	A	・97.5%の児童が友だちのことを思いやり、学校で楽しく過ごすことができた。 ・アンケートで実態把握を行い、管理職への報告・連絡・相談を全職員が務めた。 ・ケース会議、児童連絡会、SCとの連携を定期的に継続したことが「学校に来てよかった」と思える成就感の向上につながったと考える。	A	・定期的なアンケートをすることによって小さなことでも学校で把握してもらうことができるので、とても良いことだと思う。 ・「いじめ」をいじめて認識できずにいるケースがあると思う。いつも児童に対する目配り、心配りが大切。 ・コロナに感染した児童がいじめの対象にならないように注意して見守ってほしい。	特別活動部
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○気持ちの良い挨拶ができる児童の割合を85%にする。	・月の生活目標との関連を図る。 ・学年に応じた挨拶の仕方を指導し、定期的に振り返る機会をつくり意識づけをさせる。 ・挨拶運動で挨拶に対する意識を高める。 ・挨拶を頑張っている児童を褒める機会を作る。	A	・93%の児童がほぼ気持ちの良い挨拶をしている。 ・引き続き、定期的な振り返りや挨拶運動、賞賛をして、さらなる徹底を図る。	A	・93.1%の児童がほぼ気持ちの良い挨拶をし、二言挨拶等、挨拶の仕方もより良いものへと変化している。 ・次年度もより気持ちの良い挨拶ができるようにしたい。	A	・近所や下校時でも児童たちがほぼ気持ちの良い挨拶をしている。見守り隊として交差点に立っている人や止まっている車にも良いあいさつができている。 ・学校内と学校外では違う子がいる。知っている人にはあいさつしてほしい。自然にあいさつが出るよう習慣づけてあげたい。	生活指導部
	○「安全に関する資質・能力の育成	○廊下右側歩行率を90%以上にする。	・月の生活目標との関連を図る。 ・視覚的に右側歩行を意識できるよう、廊下の一部に　矢印を貼る. ・定期的に振り返る機会をつくり意識づけをさせる	A	・91%の児童がほぼ右側歩行をしている。 ・引き続き、教師による声かけや児童自身による定期的な振り替えり等によって、さらなる徹底を図る。	A	・94.1%の児童がほぼ右側歩行をしている。継続指導により意識が向上してきている。 ・より少ない手立てでも右側歩行への意識をもつことができるようにしたい。	A	・児童がほぼ右側歩行をしていけば、右側歩行の意識を持つと思う。 ・学校内と学校外では違うが、右側歩行・自転車の運転で違う子がいる。監視がなくても自覚した行動が望まれる	生活指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間　年間360時間）を遵守する。	・定時退勤日を設定し、見通しを持った業務を行うようにする。 ・行事ごとに振り返りを行い、教育効果を吟味し、教育活動の精選を行う。	B	・4月に時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守できた職員が50%だったので、個人の振り返りと今後の取り組みを考えさせた。 ・働き方改革の研修を行い、教職員の意識の改革を行う。	B	・昨年度より、時間外在校等時間の平均は減ったが、まだ上限(月45時間)を遵守できていない教職員が28%いる。11月に実施した業務改善強化月間においては、個々の働き方についての振り返りを共有することができた。	B	・教職員の頑張りにはとても感謝しているが、心身・家庭生活に支障があってはいけない。両立は難しいが、少しずつでも働き方改革を進めてもらいたい。 ・解決している学校もあるので参考にして、体調を崩されないようにさらに率が下がるよう頑張ってほしい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○職員の専門性と意識の向上	○特別な支援の必要な児童の実態を把握し、特性に応じた支援に努めたと考える職員の割合を100%にする。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議を開催し、情報を共有する。 ・「かけはしノート」を活用して保護者との連携を図る。	A	・特性に応じた支援を「している」職員が38%「だいたいしている」職員が63%、合わせて100%だった。 ・引き続き、研修の実施、情報の共有を行い、特性に応じた支援に努めていく。	A	・特性に応じた支援を「している」職員が47%「だいたいしている」職員が53%と、適切な支援をしている職員の割合が高くなった。 ・児童の特性に応じた実態把握、支援・指導が実践できた。	A	・一人一人の児童に適した支援指導は難しいと思うが、今後も実態に応じた支援をお願いしたい。 ・特別支援教育の充実が図られていると聞いている。個にあった教育をお願いしたい。	特別支援教育担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となって、県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討等、全職員で分担をして研修を行った。教職員アンケートの項目『学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員が90%以上』達成しており、日々の指導により、学習状況調査の結果も良好であった。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進では、働き方改革の研修を行い、個人の振り返りと今後の取り組みを考えさせ、教職員の意識の改革を行った。昨年度より、時間外在校等時間の平均は減ったが、まだ上限(月45時間)を遵守できていない教職員がおり、引き続き取り組んでいかなければならないと思う。。 ・感染症対応等で、昨年度より学校、PTA諸行事等の中止をせずに、規模縮小や内容変更で実施することができた。引き続き、児童の健康安全面を第一に考え、学校としての取組を進めていかなければならないと考える。